

あと一步の向上に向けた取組

函館市立臼尻中学校

生活習慣・学習習慣の形成 基礎的・基本的な知識・技能の習得 望ましい学習態度の育成 学校組織・指導体制の改善

1 学力向上の具体的な方策

- きめ細やかな学習活動の展開
- 思考力・判断力・表現力を育てる「考え・学びあう授業づくり」

2 取組の概要

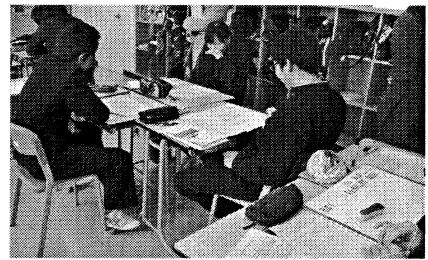
- 加配を活用した少人数指導を（英語・数学）実施している。
- 生徒の生活実態を調査することや、生徒会の委員会を活用して家庭学習の時間を調査している。また、家庭と連携して、家庭学習を促す取組を行うとともに、朝学習の時間を活用において計算などの基礎的・基本的な学習に取り組んだ。
- 希望者を中心に、放課後や長期休業中を利用した学習会を行いながら、学習習慣と基礎学力の定着を図っている。
- 校内研究を軸に、基礎と基本、表現力について明確にし、少人数での話し合いやペア学習など、形態を工夫した授業の展開を図ってきた。



TTの授業（数学）



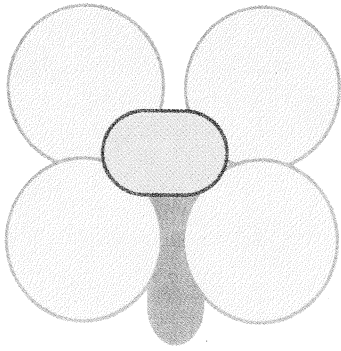
放課後学習



グループ学習（社会）

3 成果（○）と課題（●）

- 学習会への参加を通し、長期休業中などに基礎的・基本的な学習を定着させようと努力する生徒が増えてきた。
- 少人数での学習形態を用いることで、自分の考えを伝えようとする意欲や、話し合いに積極的に参加する様子が見られるようになった。
- 学習会への参加生徒が固定化されつつあり、家庭学習の時間や内容に個人差が出てきている。



あと一步の向上に向けた取組

函館市立千代ヶ岱小学校

生活習慣・学習習慣の形成 基礎的・基本的な知識・技能の習得 望ましい学習態度の育成 学校組織・指導体制の改善

1 学力向上の具体的な方策

- ①「学習の約束」の徹底
- ②わかる授業づくりのための交流
- ③校内研修の充実

2 取組の概要

①について

(1) ねらい

主体的に学習に取り組む態度を育成する。

(2) 年度始め

「学習の約束」10項目を職員で確認。

(3) 1学期

- ・学校通信で保護者に啓発。
- ・学期末に自己評価（アンケート）実施。

(4) 2学期

- ・学期末に自己評価（アンケート）実施。
- ・自己評価をもとに、重点を決定。
- ・重点項目（⑦ ⑧ ⑩）の教室掲示。

①学習が始まる前に、席についている。

②前の時間の終わりや休み時間に、学習用具を準備している。

③よい姿勢で、始まりや終わりのあいさつをしている。

④指名された時、「はい」と返事をしている。

⑤その場におうじた声の大きさを話している。

⑥目と耳をつかって、最後まで話を聞いている。

⑦学習中、よい姿勢をたもっている。

⑧おしゃべりをしないで、集中している。

⑨正しい文字を書くように心がけている。

⑩ていねいな言葉づかいを心がけている。

②について

- (1) 学校改善プランに基づいた年2回の指導（実践）内容の交流

ア 繰り返し学習や補充的な学習、習熟の程度に応じた指導の工夫

イ 自力解決を支援するための学習環境の工夫や場の設定

ウ 言葉を使って考え、表現する学習の工夫

エ 学習の約束の徹底

オ 学校図書館の積極的な活用

カ 学習習慣の定着

- (2) 学校評価での学校改善プランの評価

③について

- (1) 基礎基本を確実に身につけ、それを活用する力を育てる授業改善をめざした校内研修
- (2) 全学級公開授業の実施

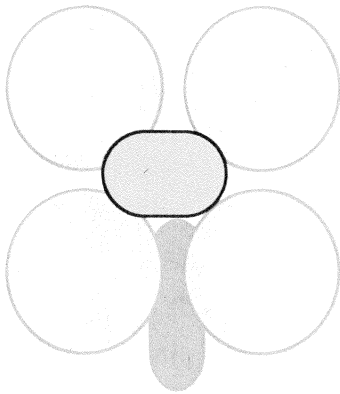
研究2年目である今年は、「書くこと」にかかわる単元の中で、「課題設定や取材」「構成」「記述」「推敲」の学習に「交流」する活動を組み合わせ、お互いがもっているよさを学び合い、自分の表現に生かしていく学習をすすめてきました。

11月には、全学級授業公開を行い、研修の成果を検証しました。（中略）どの学級においても、「交流を通して生き生きと学び合う様子が見られ、書く力の高まりを実感することができました。

<学校通信 第11号より>

3 成果（○）と課題（●）

- 学級経営交流会の場で、各担任の個性を生かしたわかる授業づくりの実践交流を行ったこと、校内研修にかかわって全学級授業公開を行ったことで、個々の授業改善に生かすことができた。
- 学びのフィールドづくりの視点から、全校共通の「学習の約束」を設定し指導してきたが、2度のアンケート結果からは、十分な成果を確認することができなかった。定着まで時間を要するものと思われるので、次年度も全学級同一歩調で、指導を継続していきたい。



あと一步の向上に向けた取組

函館市立鱒川小学校

生活習慣・学習習慣の形成 基礎的・基本的な知識・技能の習得 望ましい学習態度の育成 学校組織・指導体制の改善

1 学力向上の具体的な方策

- (1) 鱒川タイム（補充学習）の実施
- (2) 個別指導計画の作成
- (3) 「家庭学習の手引き」を用いた家庭学習の推進

2 取組の概要

- (1) 鱒川タイム～基礎力増強のために、スパイラル型の学習を実施

算数

限定された時間での成果を実現するため、教科を限定

実態調査

昨年の学力テストから基礎的な問題に絞って調査し、学習内容を数個に限定

木曜日:隔週程度 40分間

帰りの会と清掃を短時間で行い、委員会と同ワクとし、委員会のない日に行う放課後と合わせて実施。インターネットで公開されている学習プリントなどを使用

- (2) 個別指導計画の作成～個別指導の充実を図って、全児童を対象に実施

学習面・生活面

個別指導のために、両面とも長期目標、短期目標設定

実態把握

日常実態、学力個別実態調査、CRT、全国学力学習状況調査

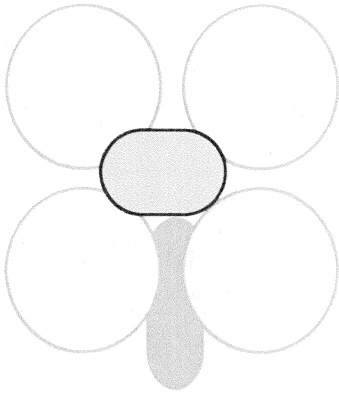
日常 年4回

日常的に観察し、記録。年4回、前期（小1～4年）、中期（小5～中1）、後期（中2, 3）あるいは、小学校部会、中学校部会で検討し、全校で交流

- (3) 「家庭学習の手引き」作成～家庭学習の意義と方法について理解を図り、見とりにより定着化

3 成果（○）と課題（●）

- 補充した学習内容を補強できたり、成長を一定期間に確認しつつ新たな課題づくりにつなげることができたり、家庭学習の取り組み児童が増えたりしている。
- もっと改善できる点が明らかになってきており、次年度は、さらに充実したい。家庭学習は、全ての子の定着化に向けさらに細やかな設定をしていきたい。



あと一步の向上に向けた取組

函館市立鱒川中学校

生活習慣・学習習慣の形成 基礎的・基本的な知識・技能の習得 望ましい学習態度の育成 学校組織・指導体制の改善

1 学力向上の具体的な方策

- ① 「家庭学習の手引き」による指導
- ② 定期テスト学習計画表の作成と指導
- ③ 教育相談を利用した学習指導と保護者懇談会
- ④ 補充学習・放課後学習・長期休業中の学習会の実施

2 取組の概要

- ①について
 - 「家庭学習の手引き」による学級指導を学期ごとに実施。
 - 国語、数学、英語は継続的に宿題を設定。社会、理科は随時。
- ②について
 - 個に応じて、テスト勉強すべき内容を厳選して提示（テスト範囲は全員共通）。学級担任、教科担任、保護者（国の子寮）の三者がテスト勉強の進行状況、学習内容のチェックを行い、必要に応じて個別指導。
 - テスト実施後、再テストまたはやり直し、テスト勉強の反省を実施。
- ③について
 - 教育相談は年2回、保護者懇談会は年4回実施し、生活・学習の両面にわたる課題を保護者と連携して指導。
 - 毎朝登校時にも、保護者から生活・学習面で課題がある生徒について報告を受け、学校でも随時指導。
- ④について
 - 隔週木曜日、数学の補充学習を実施。
 - 中3のみテスト前の放課後学習、長期休業中の学習会を実施。

3 成果（○）と課題（●）

- 少人数を生かした個別指導が実施できている。特に、生徒・保護者ともに勉強に対する意識が少しずつ高まっており、着実な学力向上が見られる。（中間層の得点向上、下位層の解答内容の質的良化）
- 保護者と学校が連携して指導にあたる強みが、随所に発揮されている。
- 家庭学習の定着については、宿題など教科担任の裁量に任されているため、教科間のバランスや量、強調週間や曜日ごとの課題設定など、学校全体としての取り組みをいかに進めるか、新年度までに検討する。
- より効果的な補充学習等の実施方法・内容を検討する。